

第4回神戸市体罰を許さない学校づくり検討委員会協議内容要旨

- ・と き 平成25年11月21日(木) 10:00~12:00
- ・ところ 神戸市総合教育センター 701号室

1 委員長あいさつ

- ・体罰を許さない学校づくりに向けてのリーフレット(事務局作成)がまとまった。
- ・まだまだマスコミ等の報道によると、体罰はなくなっていない。
- ・本日は、小学校と中学校から2人の先生に来ていただき、学校での体罰根絶に向けた研修の取組について報告していただく。
- ・各委員からは、次年度に向けてどのような取組をすべきか意見をいただきたい。

2 協議

(1) 各学校での研修実施状況について

- 体育会練習でどうしても指導に熱が入る。組体操などの指導で、教師の完成イメージと生徒のイメージが共有されていることが大切である。指導の前に必ず生徒に授業の目当てを伝えてから始める。
- 小学校でも高学年は組体操がある。指導者は途中の取組を大切にしている。運動会の練習を保護者にオープンにしている。見られているという意識が、教師にも子供にも効果がある。
- 小中校と同じ敷地で体育会練習をしている。互いに見られているという意識が働いている部分もあるのかもしれないが、ていねいな言葉を使って指示をしている。子供に充実感を持たせることによって、子供との信頼関係を築くことができる。
- 運動会の全体指導の前に必ず見通しを子供に示す。日ごろの小さな積み上げと子供との信頼関係の中で取組が充実される。

(2) 学校現場での体罰根絶に向けての取組

① 中学校の発表

- ・教員同士の協力体制が体罰の防止につながる。
- ・体罰防止の意識は高い。新着任の教員が多いので研修をしっかりと実施している。
- ・研修を通して、学習指導を一層充実させたことで学校が落ち着いてきた。生徒へしっかりと関わることで、生徒や保護者、地域の意識も変わってきている。
- ・部活動指導において、一人の教員によって指導に熱が入りすぎないように複数で指導している。

② 小学校の発表

- ・職員研修に、「体罰を許さない学校づくりに向けてのリーフレットと意見書」、「体罰防止のための事例集」を使用した。
- ・生徒の心に響く生徒指導、児童理解、協働体制の構築に関する研修を実施した。
- ・互いの教室を見合えるように、教室の窓を外して開かれた状態にしている。
- ・スポーツ活動にも力を入れているが、勝利至上主義にならないようにしている。

【発表に対しての委員からの質疑応答】(□…委員からの質問、○…委員の意見、・発表者の回答)

- 体罰の研修を行うとき、年代の違いによって、受け止め方に差はないのか。

- ・年代が違う教員同士が、日々の取組の中で意見交流をしているので差はない。
- ・教科担任制を行う中で各クラスの情報を共有し、考え方に差がないように心掛けている。
- 2校の実践発表は良かった。やはり学習指導の充実が、個々の児童生徒を生かす生徒指導につながる。教科指導の指導力を高めていくうえで、どのような取組をされているのか。
- ・小学校は教科担任制を導入し、深く教材研究する。授業をお互いに、いつでも見られる状態にし、若手がベテランの授業を見学している。運動会の練習も保護者に公開している。
- ・中学校では研究授業、公開授業、研修を実施している。教科によっては、グループ学習も導入している。若手教員がベテラン教員の授業見学を行っている。
- スポーツ活動の充実に向けて、地域など外部との協力体制について要望等があれば、聞かせていただきたい。
- ・生徒との関係を築くためには、外部コーチの方には継続的定期的に来ていただきたい。また、指導者としての適性も重要である。
- スクールサポーター制度を活用されてもよいのではないか。
- ・小学校においてはスクールサポーターをはじめ地域の方に来ていただき、スポーツ活動の支援だけでなく、子供と一緒に遊んでもらうことがある。
- 外部指導者にも体罰防止等の研修が必要である。
- 先生方の横のつながりが大切に思えた。自分の子供の時も複数の先生に多くの関わりを持っていただいた。先生方は大変だなと思った。
- 若い先生方が増えているので、世代交代がうまく進むよう期待する。

(3) 今後の体罰未然防止に向けて

①今年度の体罰調査の実施についての意見

- 学校が、教育委員会に早い段階で報告するようになっている。学校の取組等の情報を発信していく中で、保護者からの情報を得ることができている。学校から改めて調査を行うことで、学校と保護者との信頼が損なわれる懸念がある。
- 実施しないという方向でよいと思う。
- 保護者や児童生徒がいつでも相談できるように、「いじめ（ネットいじめ）・体罰ホットライン」の相談窓口の周知徹底をお願いしたい。
- 昨年度、しっかりと体罰調査を行ってもらったので、何かあれば保護者も学校に伝えていけばよいと感じている。毎年、調査するものではないと思う。何もかも学校任せではいけないという保護者の意見もある。
- 毎年調査しなくてもよいが、「いじめ（ネットいじめ）・体罰ホットライン」の相談窓口を様々な機会を通じて保護者に周知してもらいたい。
- 本会においては昨年度と同じような、体罰調査は必要ないという意見である。なお、今回調査をしないという意味について、学校現場に周知していただき、教職員の意識をより高めていただきたい。

②次年度の本会の開催についての意見

- 委員長として委員のみなさんにお尋ねするが、次年度も継続して本会を行ってくべきか。検証も含めて必要と思われるがどうか意見を出していただきたい。
- 次年度も継続して行うべきである。方向性ができただけである。体罰の根絶を目指すためには新た

な取組も考えていかなければならない。

- 次年度も継続して行うべきである。一度リセットして、体罰を根絶しようということが本会の趣旨にあった。体罰はあってはならないもの。必ず0にしなければならない。新市長が神戸市職員に向けた挨拶の中に、組織のマネジメントの大切さがあった。研修の充実により、全職員の意識高める必要がある。
- 体罰の根絶に向けて、各学校でアンガーマネジメントやソーシャルスキル等を幅広く実施していく必要がある。
- 本会は体罰防止の取組等を発信していく会である。来年度も継続して行うべきである。
- 体罰を考えると教育の本質に入っていく。厳しい指導とは何か、子供にどんな効果をもたらすのか、考えていかなければならない。体罰がある中では主体的な学びはない。この委員会からいろんなものを発信できるようにしていきたい。
- 問題行動がないのに、有形力の行使が行われていることがあるのではないか。教員の中に教育目的であれば、有形力の行使は許されるという甘えはないのか。体罰について、学校教育法だけで考えるのではなく、教育目的の指導がどこまで許されるのか、今後検討する必要があるだろう。
- いろいろな勉強させていただいた。学校では本当に一生懸命されていることがよくわかった。来年度もこの会が体罰ゼロを目指して発信できるように願っている。私も勉強したことを地域の方にも伝えていきたい。
- いろいろな勉強させていただいた。保護者で体罰を容認している家庭もある。来年度も本会で深く検討していただきたい。
- 法律等も含めて体罰を検討してみたい。

3 委員長によるまとめ

- リーフレットと意見書が出され、学校現場で研修に使われているということで、本会が役割を果たすことができた。次年度も、「体罰を許さない学校づくり」ということをスローガンに、子供たちを育成していく神戸市になることを願っている。